

コイ飼肥放流 来春にも復活



観光客でにぎわうコイの泳ぐ飼肥の水路
=2012年5月

ヘルペスで2年半ぶり

2012年に発生したコイヘルペス(KHV)のために中止されていたコイの放流が来春にも、約2年半ぶりに日南市飼肥の水路で再開される。色どりのコイの群れが石垣沿いの水路をゆったりと泳ぐ姿は観光客や市民の心を和ませ、人気があった。地元関係者や市民からは「やっぱり城下町にはコイが必要」「再開を待っていた」といった歓迎と喜びの声が聞かれる。

コイの放流は、1983(昭和58)年4月から

後町通りで開始。地域住民らでつくる「飼肥城下町鯉飼育管理委員会」が餌やりや水路清掃などを行っていた。しかし、2012年9月にコイ2匹が死に、KHVの陽性反応が確認されたことから、約150匹を回収、焼却処分した。水を止めて水路の消毒を行うなどして防疫に努めたが、感染原因は不明という。

その後は、水路に水を流すだけだったため、観光客や市民から「コイは

「城下町に必要」市民喜び

なせないんですか」「放流を再開しないんですか」などと復活を望む声が同市に寄せられていた。そのため、市は県と協議し、見回りや発生後の連絡体制強化、安全な養鯉場からコイを購入するなど、再発防止策に取り組むことを確認。本年度末終了予定の電線地中化工事後に放流を再開することを決めたという。

市は「二度とコイヘルペスを発生させないようになりたい」と強調。餌やりや水路清掃などの管理を行う団体については、地元などと今後、協議していくという。

歴史資料館などを管理する飼肥城下町保存会の郡司均事務局長(66)は「再開は本当にうれしいこと。水郷の町・飼肥として多くの観光客がコイを楽しみに訪れることを期待している」と話している。